

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボのラーバが増加しています

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、2、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) アカザラ

ラーバは造道沖（陸側）で164個体/m³、西湾中央で51個体/m³、東湾中央で30個体/m³見られました（表1）。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは久栗坂沖で32.8個体/m³、川内沖で3.1個体/m³見られました（表2）。

(3) サンカクフジツボ

ラーバは久栗坂沖で24.4個体/m³、川内沖で15.6個体/m³見られました（表2、図3）。

(4) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません（表2）。

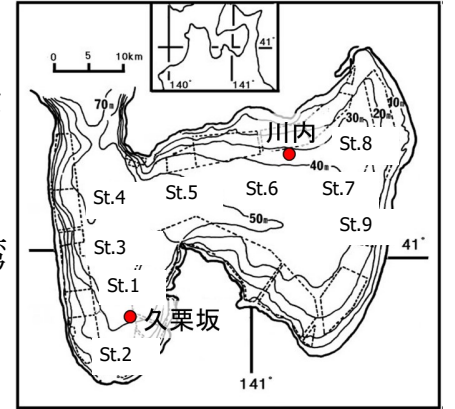


図1 アカザララーバ (St.1～9) とその他付着生物ラーバ (久栗坂・川内) の調査地点

表1 アカザララーバの出現状況 (8月1日)

	全出現個数	180μm未満		180μm以上	
		個数	割合	個数	割合
造道	164	126	76.8%	38	23.2%
西湾中央	51	34	66.7%	17	33.3%
東湾中央	30	13	42.0%	18	58.7%

表2 ラーバの出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ
久栗坂沖	R5.8.1	0.0	0.6	32.8	24.4
川内沖	R5.8.1	0.0	0.0	3.1	15.6

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) アカザラ

ラーバは殻長190μm前後で付着します。**付着直前**のラーバ全出現個数は**沖側**で減少したので、付着は**ほぼ終了**したと思われます。一方、陸側（造道沖）では大型ラーバが少ないものの、170μm前後が多く見られているので、**陸側**の付着は**若干続く**と思われます。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは周年見られますが、特に5～7月に多く出現します。

東湾では出現のピークを過ぎましたが、西湾では前回 (19.1個体/m³) より多く見られているので、今後、籠や耳吊り、マボヤ養殖施設に**付着する**と考えられます。

(3) サンカクフジツボ

付着直前のラーバが増加しているので、今後**付着が進む**見込みです。

(4) ユウレイボヤ

今春のラーバは今後ほとんど出現しない見込みですが、今秋、中層**水温が20℃を下回ると再びラーバが出現する見込み**です。

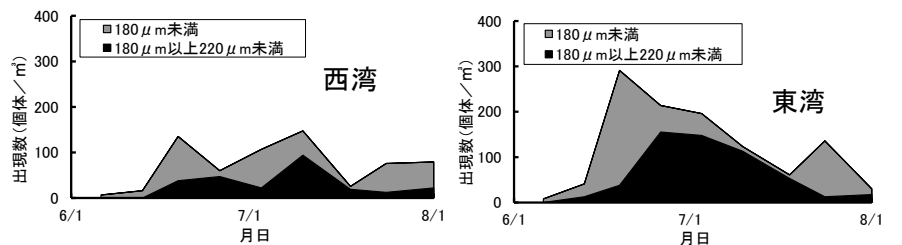


図2 西湾 (St.1～4)、東湾 (St.5～9) におけるアカザララーバ出現数の推移 (令和5年6～8月)

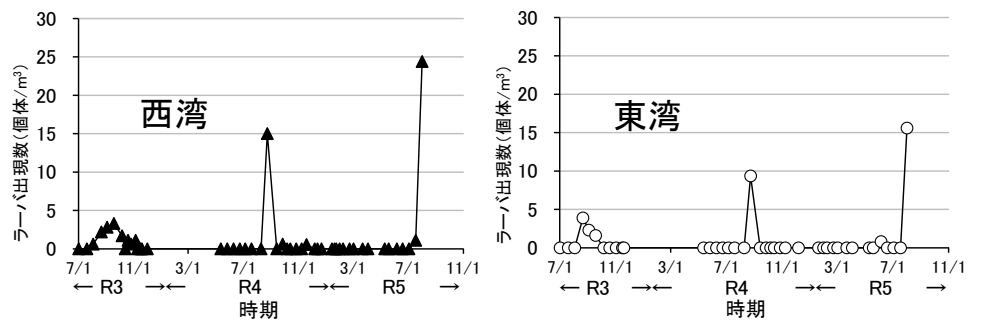


図3 サンカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和3年7月～令和5年8月)
・令和元年の観察開始から現在までの最大値：西湾 59個体/m³、東湾 45個体/m³

